

# みんぱくワールドシネマ

映像に描かれる<包摶と自律>

—多文化を生きる—



## ヒア・アンド・ゼア

第27回上映会

2014年8月30日[土] 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

協力 東京国際映画祭 / alpha violet(paris)

**Here and There / Aquí y Allá**

2012年 / メキシコ=スペイン=アメリカ合作 / スペイン語・ナワトル語 / 110分 / 日本語字幕付き <日本劇場未公開>

監督 / アントニオ・メンデス・エスバルサ

出演 / テレサ・ラミレス・アギレ、ペドロ・デ・ロス・サントス・フアレス

司会 菅瀬晶子 (国立民族学博物館 研究戦略センター・助教)

解説 鈴木 紀 (国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
TEL. 06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館



# みんぱくワールドシネマ

## 映像に描かれる<包摶と自律> —多文化を生きる—

国立民族学博物館では、2009年秋から開始した機関研究<包摶と自律の人間学>のテーマにあわせて、研究者による解説付きの上映会「みんぱくワールドシネマ」を実施しています。第6期は<多文化を生きる>をキーワードに映画上映を展開していきます。今回はメキシコの家族を描いた「ヒア・アンド・ゼア」です。アメリカでの数年間の出稼ぎ労働から故郷に帰った父親の、家族との再会と新たに築き上げていく生活模様を通して、異文化に働きに出る人々と、その人を送り出し故郷で待つ家族の心情と現況を見つめていきたいと思います。

### 第27回上映会

2014年8月30日(土) 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 (要展示観覧券(一般 420円))

定員 450名

入場整理券を10:00から講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

協力 東京国際映画祭 / alpha violet(paris)

## ヒア・アンド・ゼア Here and There / Aquí y Allá

2012年/メキシコ=スペイン=アメリカ合作/スペイン語・ナワトル語/110分/日本語字幕付き

<日本劇場未公開>

監督/アントニオ・メンデス・エスバルサ

出演/テレサ・ラミレス・アギレ、ペドロ・デ・ロス・サントス・フアレス

司会 菅瀬晶子(国立民族学博物館 研究戦略センター・助教)

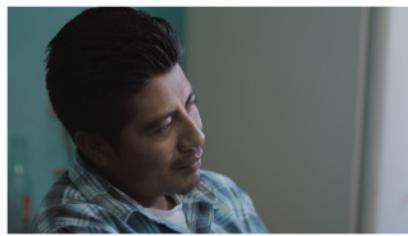
解説 鈴木 紀(国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

### 映画解説

メキシコの小さな山村を舞台に、雇用不足などにあえぐ地方の深刻な現状を、ある一家のささやかな日常を通して、静かなトーンながらもリアルに映し出し、カンヌ国際映画祭批評家週間でグラントプリに輝いた佳篇。出稼ぎ先のアメリカから妻子の待つ故郷に、数年ぶりに戻った夫は、持ち帰ったキーボードを携え、密かに夢見ていたバンド活動を始める。異国で忙殺される間に、難しい年頃を迎えた娘との距離をゆっくりと縮めつつ、新たな生命も授かり、つましくも幸福な月日が流れていく。だが、働きたくても、よい仕事が見つからない現実の壁が立ちはだかる。本作が長編デビューとなるアントニオ・メンデス・エスバルサ監督は、現地の声をすくい取った脚本を実際に彼ら自身に演じさせ、離ればなれでも心で深く想い合う、ある家族の愛の在りようを、シンプルかつ強烈な描写を丹念に積み重ねることで、細やかに紡ぎ上げた。(映画評論家 服部香穂里)

### 国境の「こちら」側の移民の暮らし

メキシコ人のアメリカへの大規模な移住は1942年から64年にかけて実施されたブラセロ計画に端を発する。農業の人手不足を補うためにアメリカ政府がメキシコ政府に労働者の派遣を要請し、450万人のメキシコ人がアメリカに渡った。それ以後も、仕事を求めてアメリカに移住するメキシコ人は後を絶たない。こうした移民の中にはアメリカ市民権を得て定住する者もいるが、多くはメキシコとアメリカの間を往来する循環移民といわれる人たちだ。この映画の主人公ペドロも、こうした移民の一人だ。映画では、彼がアメリカから「こちら」側のメキシコに戻り、故郷で過ごす数年間が描かれている。その描写から現代メキシコ社会のさまざまな様子がうかがえる。ほっとするのは人の暖かさだ。久しぶりの帰郷にとまどうペドロを、家族や友人はゆっくりと受け入れていく。一方、暮らしが厳しい。ペドロは、音楽でも農業でも建設業でも安定した収入を得られない。妻の出産に際しては、ある程度の医療サービスは受けられたが、自己負担は重い。これらは、メキシコ社会の包摶力が不十分であることの現れである。そのためペドロはメキシコに安住できず、再び「むこう」を目指す。家族の絆が強まった後だけに、それは一層つらいことだろう。この映画から、循環移民が生まれる理由と、彼らの境遇を推察することができる。(鈴木 紀)



展示場ミニレクチャー 8月30日上映当日 11:30~12:00(予定)

本館のナビひろばにて、鈴木 紀(本館准教授)によるメキシコ移民映画の解説をおこないます。[要展示観覧券/申込不要]

### 「包摶と自律の人間学

#### —多文化を生きる人々の映画を見る—

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国内外を問わず自分の故郷を離れて異郷に暮らす時、私たちは必ずマイナリティ(少数者)になります。そこが安住の地となるか否かは、周囲の人々が私たちをどのように包摶するか、そして私たち自身がどれだけ自律しているかにかかっています。隣人から暖かく迎えられ、自信が持てると、居心地がよいものです。ところがその安堵感は、些細なうわさや事件、予期せぬ災害や不景気などをきっかけに、暗転することもあります。社会のストレスはしばしば、少数者に向かわれるからです。このような緊張感は、「移民」や「外国人労働者」など、多文化環境に生きる人々を描く映画からうかがい知ることができます。まずは少数者の目線にたって、その境遇を実感してみましょう。次に多数者の目線から、少数者の葛藤を眺めてください。そうすれば映画を見終わってみんぱくを出た途端、慣れ親しんだ私たちの日常生活が少し違って見えてくるかもしれません。

### ご利用案内

\*国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館の愛称です。

### 観覧料

一般 420円/高校・大学生 250円/小中学生 110円

\*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

### 交通のご案内

#### ●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車、徒歩約15分

\*自然文化園各ゲート脇の券売機でみんぱくの観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車、徒歩約15分

\*「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通じて来館できます。

#### ●バス

[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分

JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

#### ●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。

下車、徒歩約5分

#### ●乗用車

駐車施設が無いため「みんぱく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。

最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

\*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。



### お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00)

FAX.06-6875-0401

<http://www.minpaku.ac.jp/>

公式Facebook <http://www.facebook.com/MINPAKU.official>

### 次回作品

## 海と大陸 TERRAFERMA

2014年11月9日(日)

2011年/イタリア=フランス合作

93分/イタリア語/日本語字幕付き

監督/エマヌエーレ・クリアレーゼ

主演/フィリッポ・ブッチロ

ドナテッラ・フィノッキアーロ



© 2011 CATTLEYA SRL・BABE FILMS SAS・FRANCE 2 CINÉMA



国立民族学博物館